

## 報告

## 保育者養成におけるピアノ指導についての一考察

## — 実践につながる演奏技能の習得に向けて —

山路 麻佳

## ＜要 旨＞

本稿では、保育現場での実践につながる演奏技能の習得に向けて、『大学ピアノ教本』の内容を精査し、ピアノの基礎技能から簡易伴奏を用いた弾き歌いの演奏技能を系統立てて習得できるよう指導内容の検討を行った。

教本の楽曲から8つの要素を抽出し分析した結果、音楽的知識や移調、伴奏形等を習得できる内容となっており、保育者として必要な基礎技能を習得し、弾き歌いの技能習得へ段階的に進むために有効であることが示された。また、限られた授業時間で取り組むことができるよう『最新・幼児の音楽教育』の掲載曲と音楽的要素を関連付けることで、弾き歌いの技能習得へ移行できるよう『大学ピアノ教本』94曲から38曲に抜粋した。弾き歌いでは、簡易伴奏に取り組む際に様々な伴奏法の利点と欠点を伝えた上で個々の学生に応じた方法を教授し、他の曲にも自分で応用していくことができるようにする必要がある。本研究は指導内容の検討を行ってきたが、今後は学生の習得状況や理解度、心情から本研究の有効性を確認していきたい。

キーワード：保育者養成校、ピアノ、弾き歌い、簡易伴奏、音楽表現

## I. はじめに

保育現場において子どもの豊かな音楽表現活動を支えるために、保育者を目指す学生にはピアノや歌などの基礎的な演奏技能や音楽的知識が求められる。保育者養成校でのピアノの演奏技能習得については、様々な視点から先行研究がなされている。辻ら(2019)<sup>1)</sup>や横溝(2020)<sup>2)</sup>の研究でも述べられているように、本学でも近年ピアノ初心者の人数が増加しており、2年間という限られた時間でピアノの演奏技能を習得することは困難である。

筆者は前稿<sup>3)</sup>で、本学が使用している『新訂 バイエルピアノ教則本』<sup>4)</sup>が保育者を目指す学生に適しているか検討するために、全国の保育者養成校で使用している教本の比較を行った。それにより、短期間で初心者の学生が効率よくピアノ演奏技能を習得するためには、『新訂 バイエルピアノ教則本』のような一般的な初心者向けの教本ではなく、移調や、弾き歌いなど保育者にとって必要な音楽表現を豊かにするための要素が1冊となった教本を検討し、保

育現場での様々な音楽活動に対応できる力を養う必要性について報告した。

また、初心者が増加している現状は他校でも取り上げられており、弾き歌いにおけるピアノ伴奏を簡易化する方法について様々な先行研究がなされている。本学でも学生が実習先でコード伴奏の楽譜を弾くように課題を出されることや、学生から簡易な伴奏に編曲する方法が知りたいという相談を受けたことにより、昨年度(2020年度)の1年次後期よりコード伴奏による弾き歌いの課題を数曲取り入れている。しかし、1年次前期に『新訂 バイエルピアノ教則本』の内容を楽譜通りに正しく演奏することで習得していくピアノの基礎技能と、後期に習得するコード伴奏を用いた即興的な技能を必要とする読譜法や弾き方の違いは、初心者にとって混乱をきたすのではないかと考えた。正木(2020)<sup>5)</sup>は東京及び埼玉県の保育者にアンケート調査をした結果から、次のように述べている。

『バイエル教則本』を終了した学生は、楽譜に対す

る応用的に理解力が定まっておらず、楽譜に記されていない音をコード記号で弾くことに戸惑うことが多い。またこの教則本は様々なピアノの技法を学ぶ導入期の教材であり、方向性を考えた場合、簡単な童謡曲を簡易伴奏する技術の習得とは不一致な部分もある。<sup>5)</sup>

前稿<sup>3)</sup>で全国の保育者養成校で使用している教本を調査している中、『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』<sup>6)</sup>を使用している学校が複数見られた(364校中26校)。この本の冒頭頁には、「小学校・幼稚園の先生になろうとしている学生が、最も合理的、かつ短期間に、実際の授業(歌に伴奏を付けて弾く)に即した演奏技術が身につくように考慮して編集しました。」<sup>6)</sup>と記載されている。この『大学ピアノ教本』を使用することで、ピアノの基礎技能から弾き歌いの演奏技能の習得へ移行できるのではないかと考えた。

本論文では、保育現場での実践に繋がるピアノ演奏技能の習得に向けて、『大学ピアノ教本』の内容を精査し、基礎技能の習得から簡易伴奏を用いた弾き歌いの演奏技能習得へ系統立てた内容の検討を行っていく。

## II. ピアノ実技科目のカリキュラム

本学のピアノ実技科目は、2年間継続して開講されている。昨年度(2020年度)の各授業の開講時期

と指導内容を含む概要は表1の通りである。

## III. 保育者として必要なピアノ演奏技能

保育者としてどのような演奏技能が必要かを、「幼稚園教育要領」<sup>7)</sup>「保育所保育指針」<sup>8)</sup>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」<sup>9)</sup>の内容を基に考察していく。

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の第2章「表現」において、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」<sup>7)</sup>と記述されている。その内容にある「(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。」<sup>7)</sup>には、「幼児の思いを音や声、身体の動き、形や色などに託して日常的な行為として自由に表現できるようにすることが大切である。」<sup>7)</sup>と記されている。保育者が子どものイメージや表現しようとする姿を受け止め共感することで、保育者と子ども間にコミュニケーションが図られ、信頼関係が生まれる。それにより、子どもは自由に表現する喜びを感じ、表現への意欲を高めていくことに繋がる。表現する喜びを十分に味わえるように活動を工夫していくためには、保育者自身が豊かな感性をもち、子どもの自由な表現に寄り添いながら活動を広げていくことが必要である。そこで求められるピアノ演奏技能は、楽譜通りに弾くことよりも、子どもが発する音や声、動きなどの表現に合わせて、ピアノで即興的に速さやリズム、強弱をつけてピア

表1. 2020年度ピアノ実技科目のカリキュラム

開講時期	科目名	教科書名	内容
1 年 次	前期 こどものためのピアノⅠ	『新訂バイエルピアノ教則本』	ピアノ演奏の基礎的技術を学ぶ。 バイエル教則本から抜粋された100番までの習得を目指し、保育現場で活用していくことができるよう読譜力・演奏力を身につける。
	後期 こどものためのピアノⅡ	『最新・幼児の音楽教育』 独自のプリント(コード奏)	『最新・幼児の音楽教育』を用い弾き歌いの演奏技術を学ぶ。 プリント課題により、コード奏の基礎を身につける。
2 年 次	前期 こどものうたと伴奏法Ⅰ	『最新・幼児の音楽教育』 独自のプリント(コード奏)	実習に備え弾き歌いのレパトリーを増やし、表現豊かな演奏力を身につける。
	後期 こどものうたと伴奏法Ⅱ	『最新・幼児の音楽教育』 独自のプリント(コード奏)	保育の現場で柔軟にピアノ演奏を応用できるよう、コード奏のアレンジを身につけ、表現豊かな演奏力を身につける。

ノで子どもの表現に寄り添っていき力と考えられる。また、既存の楽曲を使用した歌唱活動などにおいても、子どもの様子に合わせて伴奏形をアレンジしたり、即応的に音を加えるなど変化をもたせることにより、子どもの感性を刺激し、子どもの創造力を広げていくことができると考える。

また、第2章「表現」の内容にある「(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」<sup>7)</sup>には、「教師などの大人が、歌を歌ったり楽器の演奏を楽しんだりしている姿に触れることは、幼児が音楽に親しむようになる上で、重要な経験である。」<sup>7)</sup>と記されている。保育者が様々な音楽を楽しむように表現している姿を見て、子どもは音楽を身近に感じながら、一緒に身体を動かしたり音楽から想像を巡らせていくことで、表現意欲が高まり音楽を楽しむことに繋がっていく。

保育者にとって必要なピアノ演奏技能は、子どもの表現に寄り添い即興的に演奏していくこと、楽曲の曲想を感じとり豊かな音楽表現によって演奏したり様々なジャンルの曲を楽しみながら演奏すること、このどちらも子どもの豊かな感性を育む上で大切である。

#### IV. 基礎技能習得のための教本

##### 1. 前稿<sup>3)</sup>の調査より

前稿<sup>3)</sup>で全国の保育者養成校364校のシラバスからピアノ実技科目で使用している教本を調査した。その中から、一般的な初心者向けの教本『バイエルピアノ教則本』『バスティンピアノベーシックス(ピアノレベル1,2,3)』<sup>10)</sup>『バーナムピアノテクニック(導入書・テクニック1)』<sup>11)</sup>『トンプソン現代ピアノ教本』<sup>12)</sup>『メトード・ローズピアノ教則本ピアノの一年生』<sup>13)</sup>の5冊を採り上げ、「特徴」「音価」「調性」「拍子」「強弱記号」「速度標語」「発想標語」「その他に習得できる要素」を分析し比較を行った。その結果、保育者をめざす学生にとっては、どの教本も一冊では保育者として必要な音楽的要素を習得するには十分でないことが示された。正木(2020)が「またこの教則本は様々なピアノの技法を学ぶ導入期の教材であり、方向性を考えた場合、簡単な童謡曲を簡易伴奏する技術の習得とは不一致な部分もある。」<sup>5)</sup>と述べているように、基礎技能習得の段階から、移調や歌詞付きの曲を取り入れることで弾き歌いの技能へ移行できる教本を検討する必要がある。

##### 2. 『大学ピアノ教本』の特徴

保育者養成校364校のシラバスを調査した際、一般的な初心者向け教本を用いる大学が多い中、26校が『大学ピアノ教本』を使用していた。

この教本は、大学音楽教育研究グループが作成したもので、フェルディナント・バイエル(Ferdinand Beyer, 1806-1863)とカール・ツェルニー(Carl Czerny, 1791-1857)の曲を、教職課程のために実践的な演奏技能が身に付くように考慮して編曲された94曲が掲載されている。その中で61曲がバイエルを基にした曲、33曲がツェルニーを基にした曲となっている。95番以降は補助教材として、マーチやメヌエット、『エリーゼのために』などの楽曲が掲載されている。

この教本の冒頭頁には「将来小学校・幼稚園の先生になろうとしている学生が、最も合理的、かつ短期的に、実際の授業(歌に伴奏を付けて弾く)に即した演奏技術が身に付くように考慮して編集しました。」<sup>2)</sup>と記されている。

さらに、特徴として、以下の5つが挙げられている。

- ・難易度別による曲の配列
- ・左手の伴奏形の集中的な取り扱い
- ・歌唱教材の中心となる♪のリズムを、5音構成の曲により早期から学習
- ・歌唱教材で多く扱われるF durの曲の重点的な配列
- ・実際の曲に即した基礎知識面の充実

出典：『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』まえばき、1977。

これらの特徴から、保育現場での実践に繋がるピアノ演奏技能の習得に向けて、本学でもこの教本を用いることは有効的ではないかと考えた。そのために、『大学ピアノ教本』の内容を精査する必要がある。

##### 3. 掲載曲の分析









補助教材を除いた94曲を、以下の8つの要素から分析していく。

- ①原曲、②調性、③音域、④音価、⑤拍子、⑥和音、⑦小節数/形式、⑧その他に習得できる要素

その結果を表2-1、表2-2で示す。

実践につながるピアノ指導についての一考察

表2-1. 『大学ピアノ教本』1番～48番の分析

番号	①原曲	②調	③音域	④音価	⑤拍子	⑥和音	⑦小節/形式	⑧その他に習得できる要素(強弱・標語等)
1	バイエル12による	C:	B2-G4		4/4	I V <sub>7</sub>	8/一部	順次進行、3,4度跳躍
2	バイエル8による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	5度跳躍
3	バイエル18による	C:	B2-G4		3/4		16/二部	3拍子、左手休符
4	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
5	バイエル16による	C:	C3-G4		4/4		16/二部	伴奏形①
6	バイエル15による	C:	C3-G4		4/4		16/二部	両手による動き
7	リトルピアニストによる	C:	C3-G4		4/4		16/二部	
8	ノイエツェルニーによる	C:	C3-G4		4/4		16/二部	メロディー休符
9	バイエル16による	C:	B2-F4		3/4		16/一部	伴奏形②、(5番と同旋律)
10	初歩者のためのレクリエーションによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
11	初歩者のためのレクリエーションによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
12	リトルピアニストによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
13	バイエル16による	C:	B2-F4		3/4		16/一部	伴奏形③、(5番と同旋律)
14	バイエル33による	C:	B2-G4		3/4		16/二部	
15	リトルピアニストによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
16	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4		16/二部	
17	バイエル16による	C:	B2-F4		4/4		16/一部	伴奏形④(アルベルティバス)、(5番と同旋律)
18	バイエル27による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	
19	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		4/4		16/一部	
20	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		4/4		16/一部	
21	バイエル16による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	8分音符の同音連打、(5番と同旋律)
22	バイエル15による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	8分音符の順次進行
23	リトルピアニストによる	C:	C3-G4		4/4		16/二部	
24	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
25	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4	IV	16/一部	
26	ノイエツェルニーによる	C:	B2-A4		3/4		16/一部	6度の跳躍
27	バイエル12による	F:	E3-C5		4/4	I V	8/一部	へ長調、(1番の移調)
28	バイエル16による	F:	F3-C5		4/4		16/二部	(5番の移調)
29	ノイエツェルニーによる	F:	E3-C5		3/4	V <sub>7</sub>	16/一部	
30	ノイエツェルニーによる	F:	E3-C5		4/4		16/二部	シンコペーション
31	ノイエツェルニーによる	F:	E3-C5		3/4	IV	16/一部	
32	ノイエツェルニーによる	F:	E3-D5		3/4		16/一部	
33	バイエル12による	G:	#F3-D5		4/4	I V	8/一部	ト長調、(1番の移調)
34	バイエル16による	G:	G3-D5		4/4		16/二部	(5番の移調)
35	ノイエツェルニーによる	G:	#F3-D5		3/4	V <sub>7</sub>	16/一部	
36	リトルピアニストによる	G:	#F3-D5		4/4		16/二部	
37	ノイエツェルニーによる	G:	#F3-D5		3/4	IV	16/一部	(31と同じ原曲)
38	ノイエツェルニーによる	G:	#F3-D5		3/4		16/一部	(32と同じ原曲)
39	バイエル31	C:	C3-G4		4/4		16/二部	legato、いろいろな伴奏形(その1)
40	バイエル29	C:	C3-G4		4/4		16/二部	タイ、いろいろな伴奏形(その2)
41	バイエル38による	G:	G3-D5		4/4		16/二部	Moderato、いろいろな伴奏形(その3)
42	バイエル40による	G:	G3-D5		4/4		16/二部	速度記号、いろいろな伴奏形(その4)
43	バイエル50による	C:	B2-G5		3/4		20/三部	Comodo、D.S.、セーニョ記号、高音域
44	バイエル58による	C:	B2-G5		4/4		16/二部	mf、< >
45	バイエル57による	C:	C3-A5		3/4		16/二部	f、p、Allegretto、左手メロディー、右手伴奏
46	バイエル57による	G:	G3-E5		3/4		16/二部	(45番の移調)
47	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G5		3/8		24/三部	8分の3拍子
48	バイエル52による	C:	B2-G5		6/8		16/二部	8分の6拍子(複合拍子)

※④⑥⑧については新しい要素のみを特記する。

※③音域は、国際式表記とする。

※⑦小節数については、繰り返しは省略するものとする。ただし、D.S.については繰り返し有で数える。

実践につながるピアノ指導についての一考察

表2-2. 『大学ピアノ教本』49番～94番の分析

49	バイエル55による	C:	B2-G5		4/4		20/三部	付点リズム、同一音の指替えによるポジション移動
50	リトルピアニストによる	F:	E3-C5		4/4		16/二部	スラー
51	バイエル48による	C:	B2-F5		3/4		24/二部	4分音符伴奏による付点リズム、括弧によるリピート
52	バイエル61による	G:	G3-G5		4/4		16/二部	Allegro Moderato、dolce、オクターブ跳躍
53	バイエル66	C:	B2-E5		6/8		20/三部	
54	バイエル66	F:	E3-A5		6/8		20/三部	(53番の移調)
55	バイエル94による	C:	B2-C5		4/4		16/二部	ハ長調の音階(上行形のみ)、指くぐり
56	ツェルニー100の練習曲による	C:	B2-G5		4/4		20/三部	ハ長調の音階(上行形、下行形)、スタッカート
57	ツェルニー100の練習曲の動機による	C:	B3-C6		3/4		16/二部	mp、Andante、左手高音部譜表
58	子供のための練習曲による	C:	C2-C6	■	4/4		16/二部	右手低音部譜表、ユニゾン
59	バイエル94による	F:	F3-F5		4/4		16/二部	(55番の移調)
60	ツェルニー100の練習曲による	F:	E3-C6		4/4		20/三部	(56番の移調)
61	ノイエツェルニーによる	F:	E3-♭B6		3/4		32/三部	pp、アウフタクト、オクターブ記号、エコー
62	バイエル94による	G:	G3-G5		4/4		16/二部	(55番の移調)
63	ツェルニー100の練習曲による	G:	♯F3-D6		4/4		20/三部	(56番の移調)
64	バイエル16による	G:	G3-D6		4/4		16/二部	高音域、(5番と同旋律)
65	バイエル72	G:	G3-D6		3/4		16/二部	同音指替え
66	バイエル76	G:	G3-D6		4/4		16/二部	アクセント、左手拍頭休符による伴奏、3度の重音
67	バイエル78	G:	D3-B5		6/8		24/三部	6度の重音、左手5指保持
68	バイエル77	C:	B2-F5		3/4		24/三部	cresc.、臨時記号
69	バイエル73	C:	G2-A5		4/4		16/二部	半音階、重音スラー
70	バイエル86による	G:	D3-D5	♪	4/4		7	sempre、音価の練習1
71	バイエル86による	G:	G3-G5		4/4		4	音価の練習2
72	バイエル88	G:	G3-G6	♪	4/4		24/二部	スタッカーティッシモ、付点8分音符の練習
73	ツェルニーの動機による	a:	♯G3-E5		3/4	I IV V <sub>7</sub>	8/二部	イ短調
74	バイエル60	a:	A3-G5		3/4		24/三部	dim.、転調、カノン形式、左手高音部譜表への変化
75	バイエル91	a:	A3-C6		2/4		24/三部	イ短調の旋律音階(上行のみ)、転調
76	バイエル93	a:	D3-A5		6/8		16/二部	イ短調の旋律短音階(上行、下行)
77	バイエル95	C:	C3-F5		3/8		32/二部	6度の重音移動
78	バイエル90	C:	C3-E5		6/8		24/三部	simile、山型アクセント、重音スラー
79	バイエル92	F:	E3-D5		4/4		16/二部	3連符伴奏
80	バイエル74	G:	G3-G5		4/4		24/三部	右手3連符
81	バイエル96	F:	C3-F5		3/8		40/三部	ハ長調からハ長調への転調
82	バイエル97	C:	G3-G5		3/8		24/三部	
83	バイエル89	C:	D3-C6	♯	3/4		24/三部	ハ長調からト長調への転調
84	バイエル98	F:	C3-A5		3/8		48/二部	8分の3のアウフタクト
85	初歩者のためのレクリエーションによる	D:	C3-B4		3/4	I IV V <sub>7</sub>	16/一部	ニ長調、(32番と同じ原曲)
86	初歩者のためのレクリエーションによる	d:	♯C3-B4		3/4	I IV V <sub>7</sub>	16/一部	ニ短調(85番の移調)
87	バイエル61による	D:	D3-D6		4/4		16/二部	装飾音符(短前打音)
88	バイエル57による	d:	D3-B4		3/4		16/二部	装飾音符(複前打音)
89	バイエル80	D:	D3-G6		3/4		24/三部	leggiero、ニ長調からト長調への転調、手の交差
90	バイエル100	F:	F2-G6		3/8		64/三部	
91	バイエル102	F:	E3-F6	♪	4/4		20/三部	複付点リズム
92	バイエル101	C:	C3-C6		4/4		24/三部	
93	バイエル103	C:	C3-C6		3/4		20/三部	
94	バイエル104	F:	E3-F7		3/8		48/二部	

①原曲

同じ原曲の旋律を用いることで、伴奏形の種類(例：5番と13番)や、移調について学べるように編成されている。(例：1番と27番)。

②調性

ハ長調48曲、ヘ長調17曲、ト長調20曲、イ短調4曲、ニ長調3曲、ニ短調2曲という結果となった。

③音域

原曲の『新訂 バイエルピアノ教則本』は54番まで左手が高音部譜表で書かれているが、この教本では最初から左手が低音部譜表に編成されている。

④音価(音符・休符)

全音符(休符)、4分音符(休符)、2分音符(休符)、8分音符(休符)、16分音符(休符)、付点4分音符、付点2分音符、付点8分音符、複付点4分音符を段階的に習得できるよう編成されている。

⑤拍子

4分の4拍子が45曲、4分の3拍子が35曲、4分の2拍子が1曲、8分の3拍子が7曲、8分の6拍子が6曲であった。

⑥和音

全ての調でI、IV、V、V<sub>7</sub>の和音が学べるよう編成されている。

⑦小節数/形式

全体の約7割の曲が16小節以下で作られている。また、約半数がa a' b a'といった二部形式となっている。

⑧その他に習得できる要素(強弱・標語等)

強弱記号や速度標語、発想標語などは曲の中で出てくるだけでなく、楽譜下段に記してあるため、楽典的知識も併せて学ぶことができる。

上記の結果から、『大学ピアノ教本』では、ピアノの基礎技能を身につけるだけでなく、移調の技術や、各調の和音伴奏など保育者を目指す学生にとって必要な要素を一冊で十分に習得することができると思われた。左手が最初から低音部譜表で書かれているため高音部譜表の読譜との混同が懸念されるが、各調の主要三和音(I, IV, V)と属七の和音伴奏(V<sub>7</sub>)を用いた伴奏パターンを理解することで識別しやすくなり、読譜の時間が軽減され、低音部譜表に対する苦手意識が生まれにくいと推察する。また、本学では1年次前期に『音楽の基礎』の授業で楽典を学び、その中で和音記号(I, IV, V, V<sub>7</sub>)やコードネームについて教授するようにしている。学生にとって、同時期にピアノ実技で取り組む課題と結び付けて学ぶことは効果的であると考えられる。

前稿で指摘した、歌詞付きの曲は掲載されていないが、和音伴奏を多用し、伴奏形のパターンについて学べるようになってきていることから十分に弾き歌いの技能習得へ移行できる内容になっていると考えられる。

4. 課題曲の選定について

『大学ピアノ教本』全ての曲を習得するには1年次前期の計14回の授業回数では困難であるため、掲載曲から必要な要素が含まれている曲を抜粋し「こどものためのピアノI」科目の課題曲として選定する必要がある。

抜粋する基準として、1年次後期より弾き歌いの課題に取り組むことを考慮し、弾き歌いの教本『最新・幼児の音楽教育』<sup>14)</sup>に掲載されている66曲の内容から「調性」「音価」「拍子」「その他に習得できる要素」を抽出することで関連性を見出す。抽出した結果は表3の通りである。

表3. 『最新・幼児の音楽教育』にみられる音楽的要素

調性	ハ長調：22曲、ト長調：9曲、ニ長調：9曲 変ロ長調：3曲、変ホ長調：2曲	
音価		
拍子	4分の4拍子：36曲、4分の2拍子：25曲 4分の3拍子：4曲、8分の6拍子：1曲	
その他の特徴	強弱記号	<i>pp</i> , <i>p</i> , <i>mp</i> , <i>mf</i> , <i>f</i> , <i>sf</i> , アクセント、< >
	速度標語	Moderato, Allegro, Andante, rit., a tempo
	演奏に関する記号・用語	dolce, legato, scherzando, sotto voce, D.S., D.C al Fine, スラー、アクセント、テヌート、スタッカート、タイ、オクターブ記号、装飾音符、フェルマータ、アルペジオ、グリッサンド
	運指・リズム	音階、跳躍、指くぐり、5指保持、シンコーション

実践につながるピアノ指導についての一考察

上記の内容と関連づけて、曲の選定を行う。その結果、本学の授業回数に応じて習得することができるよう38曲に抜粋したものを表4に示す。

表3で示した内容と関連付けるだけでなく、同じ原曲を用いて伴奏形や移調など学べる曲は「こどものためのピアノI」科目で取り組む課題曲として採り入れている。初心者の学生にとって、原曲が同じことにより譜読みが取り組みやすいだけでなく、ピ

アノ経験者にとっても伴奏のアレンジや移調について実践を通して、理解を深めていくことができるようにする。

音価・和音・その他に習得できる事項において、今回「こどものためのピアノI」科目で取り組む課題曲に採り入れなかった曲から抽出された新しい要素については、他の曲で同じ要素を概ね習得できるよう構成した。

表4. 『大学ピアノ教本』より抜粋した38曲

番号	①原曲	②調	③音域	④音価	⑤拍子	⑥和音	⑦小節/形式	⑧その他に習得できる要素(強弱・標語等)
1	バイエル12による	C:	B2-G4		4/4	I V <sub>7</sub>	8/一部	順次進行、3,4度跳躍
2	バイエル8による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	5度跳躍
3	バイエル18による	C:	B2-G4		3/4		16/二部	3拍子、左手休符
4	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	
5	バイエル16による	C:	C3-G4		4/4		16/二部	伴奏形①
9	バイエル16による	C:	B2-F4		3/4		16/一部	伴奏形②、(5番と同旋律)
13	バイエル16による	C:	B2-F4		3/4		16/一部	伴奏形③、(5番と同旋律)
18	バイエル27による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	伴奏形④(アルペルティバス)
21	バイエル16による	C:	B2-G4		4/4		16/二部	同音連打、(5番と同旋律)
24	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4		16/一部	8分音符の順次進行
25	ノイエツェルニーによる	C:	B2-G4		3/4	IV	16/一部	
27	バイエル12による	F	E3-C5		4/4	I V	8/一部	へ長調、(1番の移調)
30	ノイエツェルニーによる	F	E3-C5		4/4	V <sub>7</sub>	16/二部	シンコペーション
32	ノイエツェルニーによる	F	E3-D5		3/4		16/一部	6度の跳躍
33	バイエル12による	G	#F3-D5		4/4	I V	8/一部	ト長調、(1番の移調)
37	ノイエツェルニーによる	G	#F3-D5		3/4	IV	16/一部	(31と同じ原曲)
40	バイエル29	C:	C3-G4		4/4		16/二部	タイ、legato
42	バイエル40による	G:	G3-D5		4/4		16/二部	速度記号
43	バイエル50による	C:	B2-G5		3/4		20/三部	Comodo、D.S.、セーニョ記号、高音域
48	バイエル52による	C:	B2-G5		6/8		16/二部	8分の6拍子(複合拍子)
49	バイエル55による	C:	B2-G5		4/4		20/三部	mf、Moderato、付点リズム、同一音の指替えによるポジション移動
51	バイエル48による	C:	B2-F5		3/4		24/二部	4分音符伴奏による付点リズム、括弧によるリピート
56	ツェルニー100の練習曲による	C:	B2-G5		4/4		20/三部	スラー、指くぐり、ハ長調の音階(上行形、下行形)、スタッカート
60	ツェルニー100の練習曲による	F:	E3-C6		4/4		20/三部	(56番の移調)
61	ノイエツェルニーによる	F:	E3- $\flat$ B6		3/4		32/三部	pp、アフタクト、オクターブ記号、エコー
63	ツェルニー100の練習曲による	G:	#F3-D6		4/4		20/三部	(56番の移調)
65	バイエル72	G:	G3-D6		3/4		16/二部	f、p、<>、dolce、左手メロディー、右手伴奏、同音指替え
69	バイエル73	C:	G2-A5		4/4		16/二部	アクセント、オクターブ跳躍、臨時記号、半音階、重音スラー
70	バイエル86による	G:	D3-D5		4/4		7/	sempre、音価の練習
72	バイエル88	G:	G3-G6		4/4		24/二部	左手5指保持、スタッカーティッシモ、付点8分音符の練習
74	バイエル60	a:	A3-G5		3/4		24/三部	cresc.、dim.、転調、カノン形式、左手高音部譜表への変化
76	バイエル93	a:	D3-A5		6/8		16/二部	I短調の旋律短音階(上行、下行)
78	バイエル90	C:	C3-E5		6/8		24/三部	6度の重音、simile、山型アクセント、重音スラー
81	バイエル96	F:	C3-F5		3/8		40/三部	へ長調からハ長調への転調
84	バイエル98	F:	C3-A5		3/8		48/二部	8分の3拍子のアフタクト
85	初歩者のためのレクリエーションによる	D:	C3-B4		3/4	I IV V <sub>7</sub>	16/一部	二長調、(32番と同じ原曲)
89	バイエル80	D:	D3-G6		3/4		24/三部	装飾音符、leggiero、二長調からト長調への転調、手の交差
90	バイエル100	F:	F2-G6		3/8		64/三部	

※表の赤字については、今回「こどものためのピアノI」科目で取り組む課題曲に採り入れなかった曲で抽出された新しい要素を習得できる部分として挙げている。

## V. 簡易伴奏の在り方について

### 1. コード伴奏の活用

保育者を目指す学生にとって、簡易伴奏にする方法を学ぶことは、ピアノが苦手な学生だけに限らず、保育現場で多忙により練習時間の確保が難しい場合や急遽ピアノ伴奏を弾く必要になった時にも有益と考える。学生は1年次前期『音楽の基礎』でコードネームについて学ぶが、そこでは限られた授業回数の中でコード伴奏を使った演習に多くの時間は取れない実状がある。そのため、1年次後期のピアノ科目の中でコード伴奏の曲を取り入れることで、実践を通してより理解を深め、自分で活用していくことができると考える。

前章で『大学ピアノ教本』では、左手の和音伴奏により各調の主要三和音と属七の和音を習得することができるかと述べた。例えば、ハ長調では、譜例1. のように掲載されている。コード伴奏を学ぶ際には、譜例2. のように和音記号とコードネームを関連して理解させることで、前期に習得した技能とコード伴奏の読譜が涵養できると考える。

こうした説明により譜例3. のような楽譜を演奏する際にも左手が容易に演奏できるようになると考える。初心者の学生によっては、譜例4. のようにC (I)・F (IV)・G<sub>7</sub> (V<sub>7</sub>) にそれぞれ○・□・△という形や、赤・黄・青といった色をつけることで視覚的なアプローチにより、まずは伴奏形を覚えさせることも効果的であると考えられる。

主和音(I) [C] — ハ長調(C dur)の和音 — 属七の和音(V<sub>7</sub>) [G<sub>7</sub>]

ハ長調(C dur)の下属和音(IV) [F]

譜例1. 『大学ピアノ教本』におけるI, IV, V<sub>7</sub>の説明<sup>2)</sup>

音名(コード)	ド(C)	レ(D)	ミ(E)	ファ(F)	ソ(G)	ラ(A)	シ(B)
和音記号	I	II	III	IV	V	VI	VII

【ハ長調】 C (I) F (IV) G (V) G<sub>7</sub> (V<sub>7</sub>)

譜例2. ハ長調の和音記号とコード



C C G7 C F C  
 おおきな くりの きのしたで あな-たと わたし  
 C F G7 C C G7 C  
 たの しく あそびましよう おおきな くりの きのしたで

譜例3. コード伴奏による「大きなくりの木の下で」

C C G7 C F C  
 おおきな くりの きのしたで あな-たと わたし  
 C F G7 C C G7 C  
 たの しく あそびましよう おおきな くりの きのしたで

譜例4. 視覚的アプローチを用いた指導

## 2. 簡易伴奏の種類

簡易伴奏はコード伴奏に限らず、基の楽譜から必要な音を抜き出す方法などいくつかの手段がある。

津島 (2018)<sup>15)</sup> は、これまでの先行研究をもとに簡易伴奏法について、以下の2つを取り上げている。

- ・基本伴奏法・・・伴奏の元の楽譜を用い、より簡単に、しかも音楽も本質を損なうことなく直して弾く方法<sup>16)</sup>
- ・コード伴奏法・・・曲の用いられているコード（和音）やコードネームを参考にして、楽譜通りの伴奏ではなく簡易な伴奏に直して演奏する<sup>16)</sup>

基本伴奏法では、基の楽譜の音を減らすことで簡易にしていくことができる。津島も指摘しているが、音の厚みには欠けるがピアノ経験の少ない学生にとっては弾きやすく、原曲のリズムを残すことで曲想を維持することができるだろう。しかし、筆者がこの基本伴奏法で初心者の学生に指導を行った際、初心者の学生にとっては低音部譜表の読譜が難しい上、どの音を楽譜から抜き出したら良いのか分から

ない、楽譜と違うことを弾くため逆に混乱して難しいといった様子がみられた。指導の際に教員が抜き出す音を提示すれば演奏の難易度は下げられ学生は弾きやすくなるが、楽曲によって減らす音の決まりがないため、初心者の学生にとっては自分で簡易伴奏を導き出すのは難しい点もあると考える。ピアノ経験者や読譜力のある学生には、有効的な簡易伴奏となるのではないだろうか。

それに対し、コード伴奏は基の楽譜に捉われずコードネームの理解ができていれば、初心者の学生にとっても自分で簡易伴奏づけが可能となる。

コード伴奏法について、津島 (2018)<sup>15)</sup> はさらにこれまでの先行研究をもとに以下の3つに分類している。

- ・片手伴奏法・・・右手あるいは左手でメロディーを受け持ち、それに対して、左手あるいは右手で伴奏をする（紙屋ほか 2008)<sup>17)</sup>
- ・両手伴奏法・・・子どもの歌を歌いながら両手を使ってピアノを弾く時、右手も左手もコードの音を弾き、旋律を弾かない方法（後藤 2016)<sup>18)</sup>

・左手のみ伴奏法・・・弾き歌いの中で伴奏しながら伴奏者が手を使ったり、子どもとの会話や遊びを取り入れたり、子どもと目を合わせてコミュニケーションを進める弾きうたいである（田中 2016）<sup>19)</sup>

片手伴奏法では、多くの場合が右手でメロディー、左手で伴奏を担うことが多いと推察する。本学でもこの片手伴奏法によるコード伴奏を用いている。この時の左手の伴奏は、和音で演奏するだけでなく、前章で取り上げた『大学ピアノ教本』の中で習得する伴奏形等を活用することで、曲によってアレンジすることが可能となる。

両手伴奏法は、メロディーを弾かずに伴奏に徹することができるため、豊かな響きでリズムをアレンジしていくことが可能となる。しかし、メロディーは弾かずに歌を歌っていくため、正しい音程で歌えなくなることや、歌声が小さくなることがないよう気を付けなければならない。

左手のみ伴奏法について、田中は以下のように述べている。

演奏技能不足の解消のための簡易伴奏ではなく、「楽しく遊びながら進める弾きうたい」を実践するための左手伴奏づくり<sup>19)</sup>

保育者が子どもの表現を受け止め支えていくためには、視線は子どもの方を向いて演奏していくことが望ましい。この伴奏法では、子どもの方を見てコミュニケーションをとりながら弾くことが容易な上、演奏しない右手は子どもと手振りをつけることが可能となる。初心者の学生にとっては鍵盤を見ずに弾くということが難しいため、この左手のみ伴奏法によって子どもを見ながら演奏することに慣れるという点は効果的な方法であると推察する。

簡易伴奏といっても、その方法やアレンジにより幅広い展開がみられる。本来は簡易化せずに、原曲の曲想を損なわないためにも作曲家の意図に沿って楽譜通りに演奏することが望ましい。しかし、子どもの自由な表現活動を支えるためにも、楽譜通りの伴奏に捉われず、簡易伴奏を用いることで即興的な伴奏づけができる力を養っておくことも保育者として必要な力であると考え。また簡易伴奏の方法は、学生のピアノ演奏技能に応じて、今後自分で活用していけるよう簡易にする方法を学生がきちんと理解して主体的に取り組めるよう教授することを心がけ

る必要がある。

## VI. おわりに

本研究では、保育者を目指す学生が、保育現場で豊かな音楽表現活動を展開していくことができるよう、ピアノの基礎技能から弾き歌いの技能までを系統立てて習得できる内容の検討を進めてきた。

保育者が豊かな音楽表現活動を展開していくためには、保育者自身が豊かな感性をもち、子どもの表現に合わせてピアノで即興的に速さやリズム、強弱をつけて子どもの表現に寄り添っていくことが大切である。既存の楽曲を使用する場合、作曲家の意図を正しく理解し豊かな表現によって楽曲を演奏することも子どもの豊かな感性を養うことに繋がるが、子どもの様子に合わせて変化させることにより、子どもの感性を刺激し、創造力を広げていくことができる。2年という短期間でピアノ演奏技能を習得するためには、基礎技能を習得する段階から弾き歌いに移行できる内容を検討する必要があった。『大学ピアノ教本』の分析を行った結果、この教本では音楽的知識や移調の技術、伴奏形等を学べる内容となっており、保育者として必要な基礎技能を習得し、弾き歌いの技能習得へ段階的に進むために有効的な内容になっていることが分かった。しかし、『大学ピアノ教本』全ての曲を習得するのは1年次前期の計14回の授業回数では困難であるため、『最新・幼児の音楽教育』<sup>14)</sup>の音楽的要素と関連づけることで、必要な要素が含まれている38曲を授業で取り込む課題曲として選定した。

保育者は、原曲の良さを大切にしながら豊かな表現によって演奏することも大切だが、既存の楽譜に捉われずに簡易伴奏にすることで自身の力に即した演奏表現ができ、保育者自身が音楽に親しむ余裕が生まれ、楽しみながら子どもの音楽表現を支えることが可能となる。簡易伴奏は単に技術的な難しさを解消するためだけではなく、簡易にする方法やアレンジの仕方によっては、メロディーを弾かずに両手でコードの音を弾くことで豊かな響きやリズムにアレンジすることや、片手のみの伴奏により子どもと手振りをつけてコミュニケーションをとる等、音楽表現活動を豊かにするために活用することもできる。こうした簡易伴奏に取り組む際に、『大学ピアノ教本』で習得した伴奏形を曲想に応じて活用していくこと

ができる。授業の中で学生に簡易伴奏の指導を行う際、様々な簡易伴奏の利点と欠点を伝えた上で個々の学生に応じた簡易伴奏法を教授し、他の曲にも自分で応用していくことができるようにすることが求められる。

今後は、学生の習得状況や理解度、心情を分析していくことで本研究の有効性を確かめていき、保育者を目指す学生が意欲をもって楽しくピアノ演奏技能を習得していくことができるよう研究を重ねていきたい。

### 参考文献・引用文献

- 1) 辻陽子, 伊東陽, 安久津太一: 保育者養成課程におけるピアノ指導の意義—最近10年間の研究動向を通して—. 岡山県立大学教育研究紀要. 第4巻第1号. p.1-10. 2020
- 2) 横溝聡子: 保育者養成校におけるピアノ指導法〜コードの学習を通した能動的学修への試み〜. 郡山女子大学紀要. 第56号. p.31-45. 2020
- 3) 山路 麻佳: 保育者養成におけるピアノ演奏技術の習得に関する考察—初心者のための教則本の比較—. 西南女学院大学紀要. Vol.24. p.127-139. 2020
- 4) フェルディナンド・バイエル著: 『新訂 バイエルピアノ教則本』音楽之友社. 1905
- 5) 正木文恵: 保育者養成課程におけるピアノ教則本の一考察. p.130. 目白大学高等教育研究. 第26号. p.127-134. 2020
- 6) 大学音楽教育研究グループ編著: 『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』. まえがき. 株式会社教育芸術社. 1977
- 7) 文部科学省: 『幼稚園教育要領解説』. p.223-240. 株式会社フレーベル館. 2017.
- 8) 厚生労働省: 『保育所保育指針』. 株式会社フレーベル館. 2017.
- 9) 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省: 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』東京: フレーベル館. 2017.
- 10) ジェーン・バスティン, ジェームス・バスティン著: 『バスティン ピアノ ベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル1, 2, 3』. 株式会社 東音企画. 1989
- 11) エドナ メイ バーナム著. 大島 正泰監修. 中村 菊子解説: 『バーナム ピアノテクニック』全音楽譜出版社. 1975
- 12) ジョン・トンプソン著. 大島 正泰訳: 『ジョン・トンプソン 現代ピアノ教本』. 全音楽譜出版社. 1972
- 13) 堀内 久美雄, 安川 加寿子訳: 『メトードローズ・ピアノ教則本』. 音楽之友社. 1950
- 14) 井口太編著: 『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社. 2018
- 15) 津島 忍: 『弾き歌い』における簡易伴奏法に関する一考察. p.134 愛知学泉大学紀要. 第1号. p.133-139. 2018.
- 16) 大山美和子・小原光一・河西保郎 他: 『小学校教員養成課程用新訂音楽科教育法』. p.110. 音楽教育研究協会編. 2005.
- 17) 紙屋信義・後藤みゆき: ピアノによる子どもの歌伴奏の効果: アレンジによる伴奏法を考える. p.68. 東京未来大学研究紀要1. 2008
- 18) 後藤紀子: 『保育表現技術』に沿えるピアノ指導法の予備研究: 保育者養成校における音楽指導の在り方の提案に向けて. p.79. 和光大学現代人間学部紀要 (10). 2017
- 19) 田中功一: 保育者養成における「保育内容表現」に基づいた左手のみによるピアノ伴奏の一考察. p.113, p.122. 立教女学院短期大学紀要 48. 2016

## A Study on Piano Instruction in Childcare Worker Training — Toward the Acquisition of Practical Performance Skills —

Asaka Yamaji

### < Abstract >

In this study, we analyzed the contents of the "University Piano Textbook" so necessary systematically acquire the performance skills ability to sing while playing the piano using simple accompaniment from the basic skills of the piano in order to acquire the performance skills that will lead to practice in the nursery environment.

As a result of extracting and analyzing eight elements from the music of the textbook, it is possible to acquire musical knowledge, transposition, accompaniment form, etc. It has been shown to be effective in advancing the target. In addition, by associating the songs published in "Latest Children's Music Education" with musical elements so that they can work in a limited class time, from 94 songs of "University Piano Textbook" so that they can shift to the acquisition of playing and singing skills. Excerpted into 38 songs. In playing singing, when working on simple accompaniment, we will teach the advantages and disadvantages of various accompaniment methods, and then teach the method according to each student so that we can apply it to other songs by ourselves. There is a need to. In the future, I would like to confirm the effectiveness of this research through considering acquisition status, level of understanding, and the feelings of students.

Keywords: childcare worker training school, piano, singing while playing, simple accompaniment, musical expression